



2016・2・1

第 228 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

戦争法廃止へ、野党は参院選で共闘を

各地で野党に統一候補を要請

【山梨県／県内 11 団体】 山梨県各地の九条の会や「安保関連法に反対するママの会@山梨」など 11 団体は 26 日、県庁内で会見し「安保関連法廃止等のための野党共闘による統一候補擁立を求める共同アピール」を発表しました。

アピールを発表したのは、九条の会のほか、「山梨学者・大学人の会（発起人一同）」、「山梨県医師・歯科医師の会」や若者団体「YDA」などの 11 団体。

アピールは「次期参院選では、野党が①集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回②11の安保関連法の廃止③立憲主義と民主主義をとり戻す一の 3 点で共闘による統一候補を擁立し、協力して選挙に臨むことを求める」として、改選数 1 議席の参院山梨選挙区での野党共闘の実現を求めています。

会見で、ママの会の菅野幹子副代表は「『だれの子どももころさせない』という私たちの切なる思いを背負ってくれる、政党を超えた連帯による統一候補を国会に送り出したい」と述べました。

医師・歯科医師の会の土地邦彦発起人は「昨年も市民運動の高まりのなかで野党が

手をつないでがんばってくれた。参院選でもそうなるよう求めたい」と話しました。

野党に参院選での共闘を申入れ

【福井県坂井地区／9 条の会坂井地区連絡会】 9 条の会坂井地区連絡会は 21 日、夏の参院選福井選挙区（改選 1）に、戦争法廃止と立憲主義回復をかかげる野党統一候補を擁立するよう要請をおこないました。

坂井、あわら両市の 5 つの九条の会から、佐野周一・丸岡九条の会運営委員などが民主、共産両党や連合福井の事務所を訪問。佐野氏らは、安倍政権による戦争法強行成立と立憲主義破壊を批判し、安倍首相が憲法改定を参院選の争点にすると表明したことに対し、「自らの暴挙を明文改憲によって正当化し、戦前のような独裁国家につながる道を開こうとしている」と厳しく指摘。野党結束の重要性を訴えました。

同様の要請は永平寺 9 条の会が 20 日におこなっています。

【山口県／各界著名人 11 氏】 児童文学作家的那須正幹さん（73）ら山口県内の学者、文化人、宗教者など有識者 11 氏が 22 日、県内の社民党、民主党、共産党を訪ね、

夏の参院選で戦争法廃止をめざす野党統一候補の擁立を求めました。

集団的自衛権行使の閣議決定の撤回▽11の安全保障関連法の廃止▽日本の政治に立憲主義と民主主義を取り戻す、の3点で一致する統一候補の擁立を要請。

県庁で記者会見した那須氏は「安倍さんはついに憲法改正を口にし始めるなど非常に危機感をもっている。野党は共闘してほしい」と語りました。

要請に対し、民主党の西嶋裕作代表「要望は重く受け止めたい。3党で統一候補を立てようと合意し、誠実に努力している」、共産党の佐藤文明県委員長は「安保法制廃止の無所属候補が実現するよう努力する」、社民党も県代表に伝えると述べました。

11氏は那須氏のほか、泉哲朗（下関・光明寺住職、念仏者9条の会山口代表）、岩瀬成子（児童文学作家）、上野八重子（医師）、臼井俊紀（弁護士、自由法曹団山口県支部長）、小畑太作（日本キリスト教団宇部緑橋教会牧師）、瀨瀨厚（山口大学教授）、中光弘治（弁護士）、濱田盛承（水産大学校名誉教授）、広中建次（マンガ家）、増山博行（山口大学名誉教授）の各氏です。

野党共闘をめざす意見交換会

【鳥取県中部地区／九条の会など】 鳥取県中部・九条の会の呼びかけで16日、戦争法廃止をめざす政党、団体、個人の意見交換会が倉吉市で開かれ、約60人が参加しました。

県、境港、米子両市、湯梨浜、日南両町の九条の会、大山、南部両町の戦争法廃止をめざす町民の会、民主党、共産党、社民

党、新社会党などの代表、参院選に福嶋浩彦氏（元消費者庁長官）を擁立する政治団体「住民目線で政治を変える会・山陰」の関係者らが出席、活発に論議しました。

各団体は戦争法廃止、閣議決定の撤回をめざすことでおおむね一致し、政党間で協議して選挙協力するよう促す意見が多数出されました。民主党の興治英夫県議は「みなさんの意見をベースに考え市民が中心の選挙にしたい」と答えました。

2000万人署名成功へ共同体制

【栃木県／九条の会など3団体】 栃木県の「九条の会・栃木」「戦争させない全国署名栃木県連絡会」「憲法を守り・生かす共同センターとちぎ」の3団体の代表は25日、記者会見し、「戦争法廃止と立憲主義の回復を求める栃木県民ネットワーク」（仮称）の設立を発表しました。

会見で、「九条の会・栃木」の田中徹弁護士は、同ネットワークの活動について「戦争法廃止、憲法『改正』反対、立憲民主主義の回復の3目標で共同行動をすすめる組織です」と説明。具体的活動では、戦争法の廃止を求める「2000万署名」などに全力をあげると述べました。

3団体は昨年8月、戦争法案の廃案をめざし、宇都宮市で約2000人を集めた県民パレード（県弁護士会主催）に取り組み、同法の成立後は、宇都宮市、栃木市、佐野市などで廃止を求める宣伝・署名活動をしてきました。

【和歌山県那賀地区／九条の会など】

「戦争法廃止！『2000万署名を成功させる』那賀連絡会」は20日、和歌山県岩出市で結

成総会を開きました。

連絡会には、那賀地区の岩出・貴志川・桃山・粉河・打田の各地域九条の会、年金者組合岩出支部や同紀の川支部、和教組那賀支部、高教組第一支部、新婦人紀の川支部、那賀退教協、医療生協那賀地区協、那賀母親大会迎絡会、生活と民主主義を守る那賀の会などの諸団体と那賀地方の個人が参加しています。

講演した「憲法九条の会を守るわかやま県民の会」の武内正次氏は「県内で20万の署名を集めるためには、戦争法の“せ”の字も知らない人にも署名してもらわないといけない」と指摘。運動が広がるなかで野党共闘がすすむ可能性を強調するとともに、野党統一候補擁立など県内の動きを紹介し、「カギは国民世論だ」と署名推進を訴えました。

総会では、思想・信条の枠を超えて署名を集めることや統一行動日、那賀地方で署名2万を集めることなどを決めました。また、参加者から「子どものために」と署名した母親など署名に託す住民の思いが報告されました。

「会」を広げ地域に深く浸透し

【宮城県仙南地域／仙南九条の会連絡会】

「仙南九条の会連絡会」は昨年4月、宮城県の仙南地域の9自治体（白石市、角田市、大河原町、柴田町、蔵王町、七ヶ宿町、村田町、川崎町、丸森町）すべてに九条の会が結成されたことから設立されました。

仙南地域の九条の会は、蔵王町で会員を140人近くまで増やすなど、運動を進めています。連絡会では定例会を開き、各地の動

きを参考に協力をしあっています。

昨年3月に結成された村田町九条の会は、人口約1万2000人の村田町で、2000人分の署名を集めることを目標にしています。鉄道の駅が無く、街頭で署名を集めることが難しいため、訪問して署名を集めます。

事務局長を務める佐藤年夫さん（78）はこれまでに400分人近く集め、「今、情勢を変えるのは国民の声。署名をお願いしながら訴えていくのが力になる」といいます。

佐藤陽子さん（76）は、「あいさつをする程度の人に声を掛けるのは勇気のいる挑戦でしたが、“戦争に参加するのは反対”という気持ちを話したら、歩いている人も快く署名をしてくれて勇気をもらえた」と署名に取り組んでいます。

町議を9期務めた佐藤年夫さんが元町議や元役場幹部職員に声を掛けるなどして、95人が呼びかけ人となりました。

多くの町民が呼びかけ人に名を連ねたこともあり、昨年6月の定例議会に提出された安保関連法案の徹底審議を求める意見書は、公明党も含めた全会一致で採択されました。

10月に仙南九条の会連絡会と共催した戦争法廃止を訴える集会・デモ行進は、「村田町でデモがあるのは初めてではないか」と注目されました。

また、呼びかけ人の一人になった元町長の佐藤洋治町議は、「憲法九条を守る首長の会」に加わるなど、昨年は九条の会の運動が広がりを見せました。

「仙南九条の会連絡会」が17日に開いた今年最初の定例会では、「以前断られた人も署名してもらえた」などの報告があり、連

絡会の丑田鉄也共同代表は「神社庁の改憲推進署名を置く神社もあり、2000万署名の取り組みを広げるためには、地元で歩くのも大切」と訴えました。

2000万人署名訴え各戸訪問

【愛媛県松山市／守ろう憲法9条！桑原の会】 「守ろう憲法9条！桑原の会」は21日、県営三町団地を全戸訪問し、戦争法廃止の2000万人署名を訴えました。富長泰行事務局長ら6人が3組に分かれ、約1時間で120軒を訪問しました。48軒と対話すると関心は高く、34人分の署名が寄せられました。

女性(67)は『戦争法』という言い方は、その通りです。若い方たちが戦死したり、何かあってからでは遅いのです。戦争法は無くさなければなりません」と言いました。

18歳の女性は最初、「分からないから…」と言っていました。しかし、日本が攻撃されなくても集団的自衛権を行使し、米軍とともに海外で戦争し、若者が駆り出されるようになると説明すると、「分かりました」と笑顔で署名しました。

参加した山内原正さんは「昼間の行動で、在宅しているのはお年寄りが多かったが、戦争体験があり、ほとんどの人が署名してくれました。一軒一軒訪問して署名を訴える活動をもっと広げ、2000人の目標をやり遂げたい」と語りました。

【札幌市手稲区／100人委員会】 14日に発足した「2000万署名をすすめる ていねい100人委員会」は、19日に続いて24日、同区のマンションで署名に取り組みました。100人委員会の國中ひろむ、沓沢志宣、川

原烈夫の3氏のほか、新発寒九条の会の会員8人が5つの組をつくり訪問しました。

國中さんがマンションにむけハンドマイクで訴えるなか、参加者は同委員会で作成した署名用紙付きビラを配り、署名を呼びかけました。対話できたのが34軒で10人分の署名が集まりました。

対話のなかで、「何をすればいいの。署名ならできます」という人、「職場の組合でやっている。頑張ってる」と励ましてくれる人、「署名はできないが選挙では野党に入れる」という人もいました。

九条の会結成のたより

【山形県高島町／たかはた九条の会】 山形県の高島町で16日、「たかはた九条の会」結成の集いが開かれました。

伊沢良治・準備会代表が「県内では地域や職場で90の『九条の会』が活動している。戦争法に反対する声が各地で起き、県内でもシールズやママの会ができると聞いている。いままで声を上げなかった人たちが行動している。過半数の町民に会員になってもらい、学校区ごとに会をつくれるよう頑張ろう」とあいさつしました。

「憲法9条を守りぬき、全ての人が平和に穏やかに暮らせる社会を目指す」との設立の趣旨を承認しました。

山形県九条連絡会の高木紘一会長が講演。山形県首長九条の会副代表の渡部章氏、高島町平和憲法を守る連絡会共同代表の今田雄一氏があいさつしました。

当面の活動として、2000万署名の取り組み強化、他団体との連携、学習会の開催などを確認しました。